

1人1台タブレット端末を活用し、自ら課題解決につながるデータを集め、主体的に学ぶ学習

第1学年

身のまわりの物質

こんな生徒たちの姿が生まれました!

- 既習内容や実験結果などデータを集め、主体的に課題解決を図ろうとする姿がありました。
- 仲間に向けて、端末画面に考えを書き込みながら説明することができました。

大型提示装置とタブレット端末による効果

導入で既習事項の振り返りと実験操作を大型提示装置で流し、本時の授業の見通しをもてるようにする。

- ・前時の学習内容と本時の実験操作を提示し、児童の理解と関心を高める。
- ・個人追究の段階で、実験操作や結果を動画で録画しておいたデータを活用できるようにしておく。



教師の指導のポイント

- 生徒が主体的に資料を活用できるように、教師と生徒が共有フォルダを通してデータを共有する。
- 学習内容の全体像が捉えられるように、端末上の資料を紙媒体としても板書に位置付ける。

協働学習支援ツールの活用による効果



児童自ら比べやすいように予想と結果を端末画面に表示して、自分の予想と結果を比べ、考察する。

- ・自分が立てた予想と実験結果を端末画面に映し、比較しながら考察する。
- ・結果として自身が撮影した動画や画像に自分の考えを書き込み、自分の考えと関連付ける。

協働学習支援ツールを用いて、ノートに整理した自分の考えを、データを示しながら説明する。

- ・実験結果やそこから考えたことを順序立てて学習ノートに記述する。
- ・自分の考えを仲間に関わりやすく伝えるために、追究の根拠となったデータを共有し、端末画面に書き込む。
- ・仲間に自分の考えを話す際に、自分の考えを根拠を示しながら、仲間に説明する。

課題に対して考えたことを、予想・結果・考え・根拠や理由の順で、学習支援ツールでカードに書きまとめながら、仲間への説明の仕方を考えることで、言語能力の育成につながると思われる。

教師の指導のポイント

- 課題に対しての生徒の考えを画面で共有し、「〇〇さんは何を根拠に考えていますか？」などと、根拠を明らかにしながら生徒の見方・考え方を広げる発問をする。

